

平成25年度業務実績報告書添付資料

独立行政法人海技教育機構

添付資料一覧

- 資料 1 : グループウェアの運用による情報提供
- 資料 2 : 人事交流の実績
- 資料 3 : 内航用練習船の活用
- 資料 4 : 海技士国家試験の合格実績
- 資料 5 : 水先人国家試験の合格実績 (平成23年度～平成25年度)
- 資料 6 : 資質教育に関する取組
- 資料 7 : 寮生活アンケートの調査の結果
- 資料 8 : 保護者アンケートの調査の結果
- 資料 9 : 海事関連企業への就職率 (平成22年度～平成25年度)
- 資料10 : 就職に関する取組
- 資料11 : 海運業界からのニーズ又は意見
- 資料12 : 社船実習の実施状況
- 資料13 : 教員の生徒・学生指導に関する意識調査の結果
- 資料14 : 教員の指導力向上のための研修
- 資料15 : 各学校の募集活動に関する取組
- 資料16 : 入学応募者数・応募倍率の推移 (平成22年度～平成26年度)
- 資料17 : 平成25年度研究項目一覧
- 資料18 : 研究成果発表一覧
- 資料19 : 各学校の海事思想普及に関する取組

グループウェアの運用による情報提供

グループウェア(情報共有)

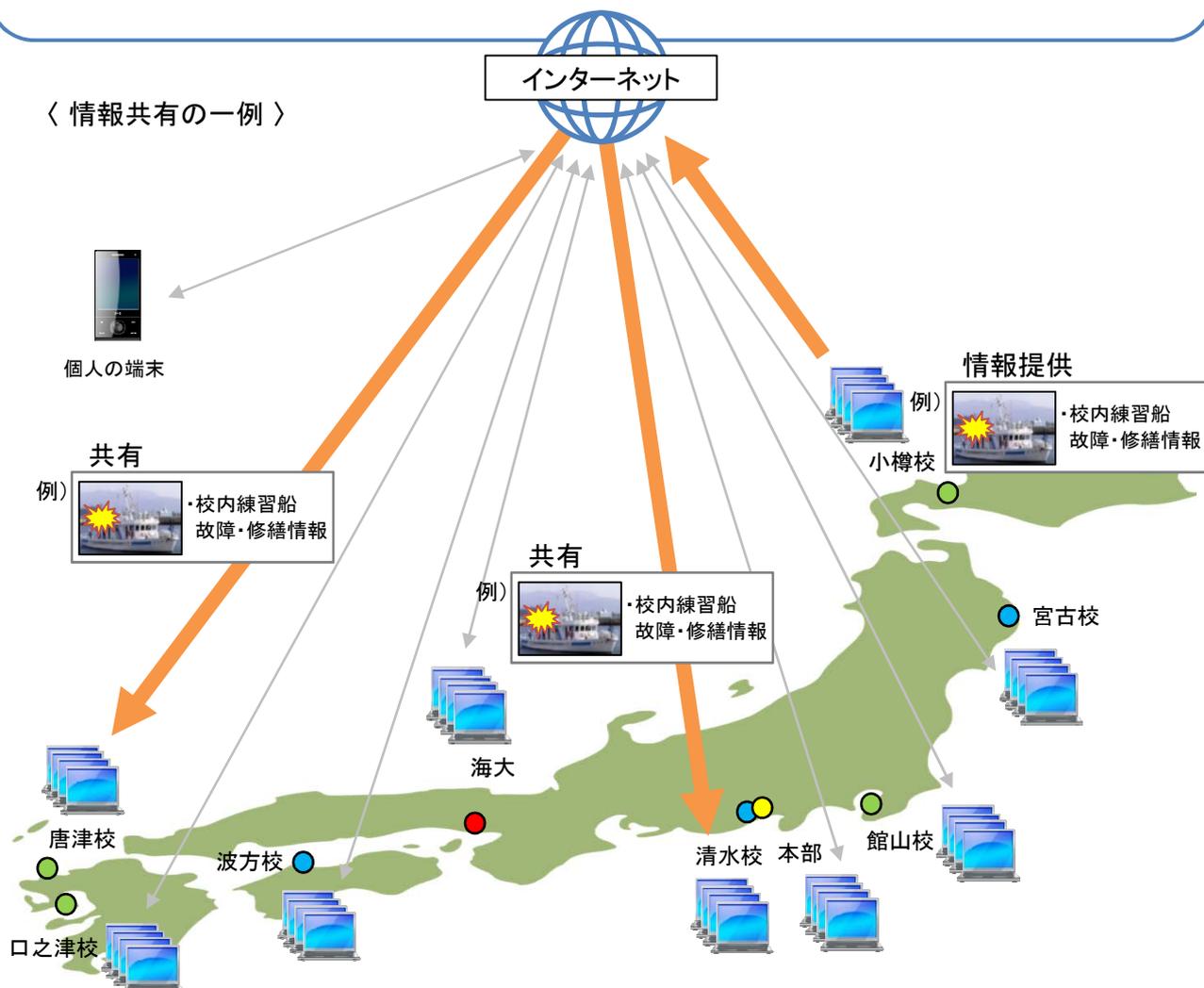


○主な機能

ファイル管理：校内練習船故障・修繕情報、機構規程集、研修資料、就職情報
各教員作成授業教材、生徒・学生指導事例、各学校定例報告 etc...

スケジュール：役職員のスケジュール管理

掲 示 板：情報伝達・周知徹底



人事交流の実績

事務職員の行政能力向上、教員の指導力向上を図る

◎平成25年度人事交流実績

15名

受入		派遣	
国土交通省海事局	3名	国土交通省海事局	5名
(独)航海訓練所	3名	(独)航海訓練所	2名
三光汽船(株)	2名	—	—
計	8名	計	7名

◎第2期中期計画の累計(第2期中期計画の目標:50名)

43名

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		計		合計
	教員	事務員	教員	事務員	教員	事務員	教員	事務員	
受入	6名	2名	3名	3名	6名	2名	15名	7名	22名
派遣	5名	3名	3名	3名	3名	4名	11名	10名	21名
計	11名	5名	6名	6名	9名	6名	26名	17名	43名

内航用練習船の活用

○座学と訓練の一貫性

「内航船員教育訓練プログラム」

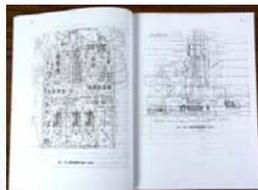


教科書の改訂
視聴覚教材の作成
(平成25年度)

(1)教科書

内航用練習船に搭載される計器・機器の図表を掲載

- ・ 航海計器
- ・ 総合訓練
- ・ 船用機関 I
- ・ 船用機関 II



船用機関 I
(練習船機関室 平面図・側面図)

船用機関 I
(エンジン外形写真)

(2)視聴覚教材

航路の航行、船橋配置等練習船訓練内容等をDVD化

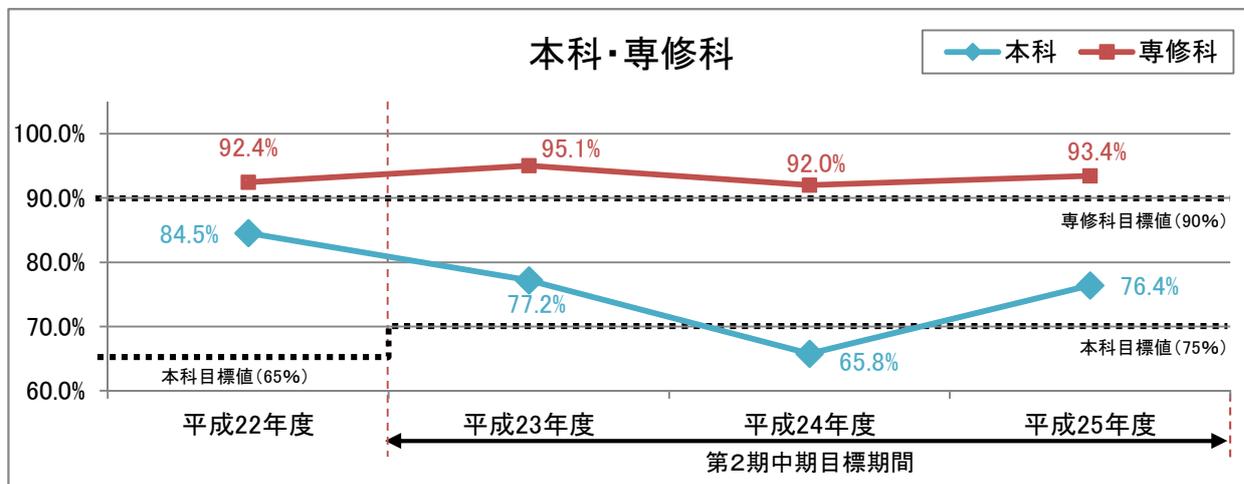
- ・ 明石海峡航路
- ・ 備讃瀬戸東航路
- ・ 船首配置
- ・ 船橋配置(投錨)
- ・ 船橋配置(抜錨)
- ・ 灯火の灯質2



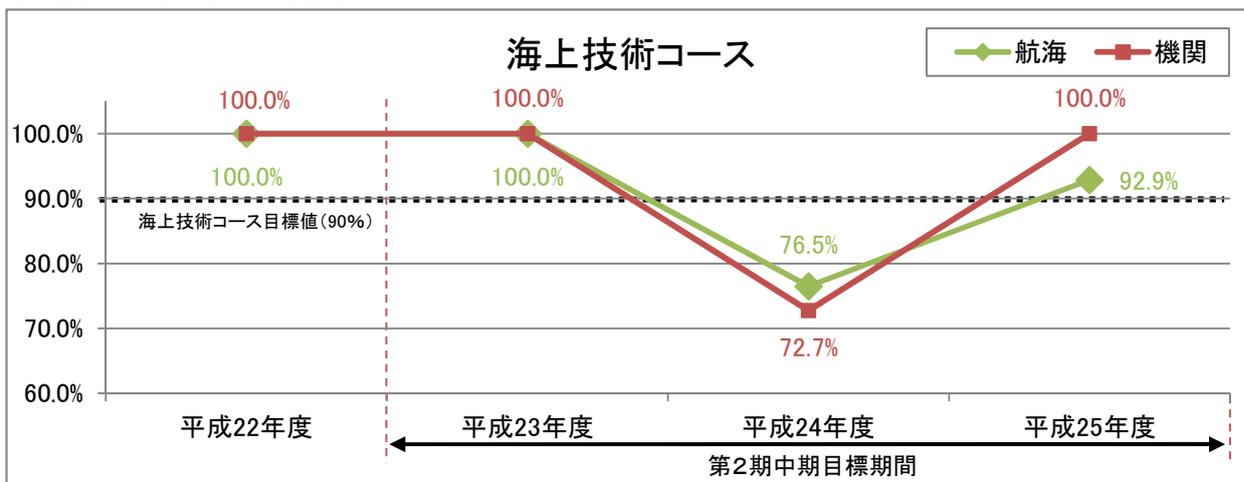
海技士国家試験の合格実績

○合格率

四級海技士(航海・機関両方の合格率)



三級海技士(航海又は機関の合格率)



注) 目標値は、中期計画において定めたものである。

○取組

海技資格取得向上のための取組

- i 航機両方の資格取得の価値観の意識付け
 - ・ 授業や就職指導を通し、航海・機関両方の資格を取得することの重要性を説明
- ii 指導方法の工夫
 - ・ 生徒・学生の学力レベルに応じた補講の実施
 - ・ 本番さながらの模擬口述試験を通し、服装や言葉遣い等に対する指導を徹底
 - ・ 新たにポケットサイズの問題集を作成・配布
- iii 問題集の精選や見直し
 - ・ 過去10年間に出题された問題を精選し問題集を作成
- iv 基礎学力の向上
 - ・ 「数トレ」や「漢字ドリル」など、数学・国語・英語を指導し、基礎学力の向上を図るとともに生徒・学生の学習意欲を向上

水先人国家試験の合格実績

(平成23年度～平成25年度)

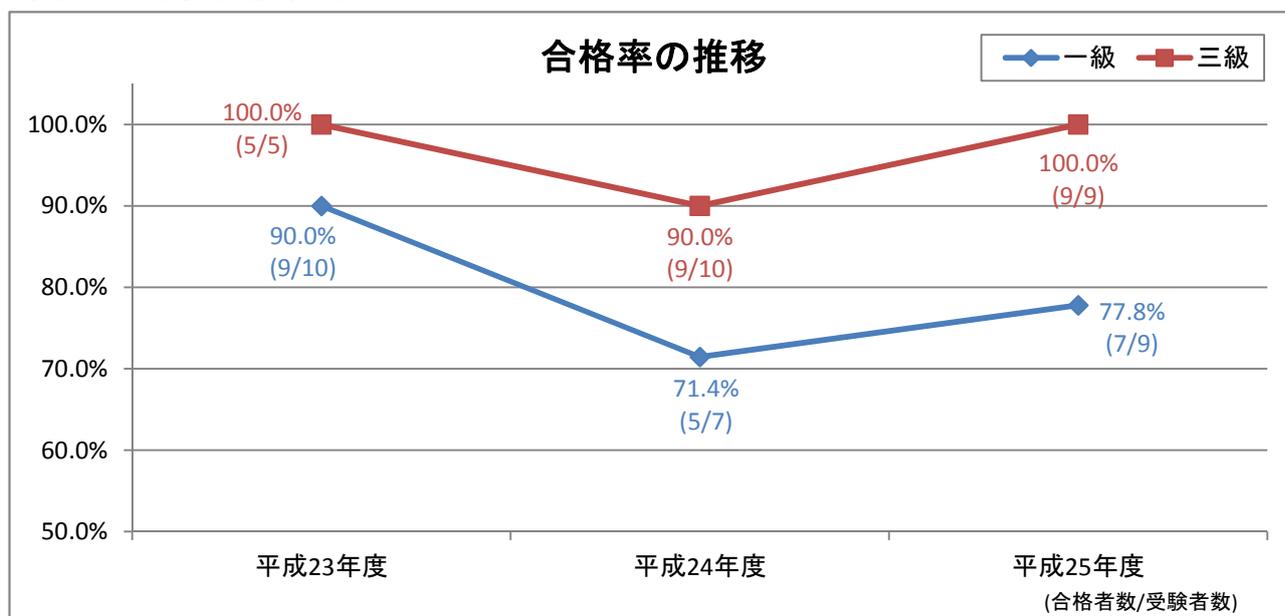
○水先課程の開講実施状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
一級	→ (9か月課程)								
	4月開講								
二級								→ (1年3か月課程) 2月開講	
三級				→ (2年6か月課程) 10月開講					

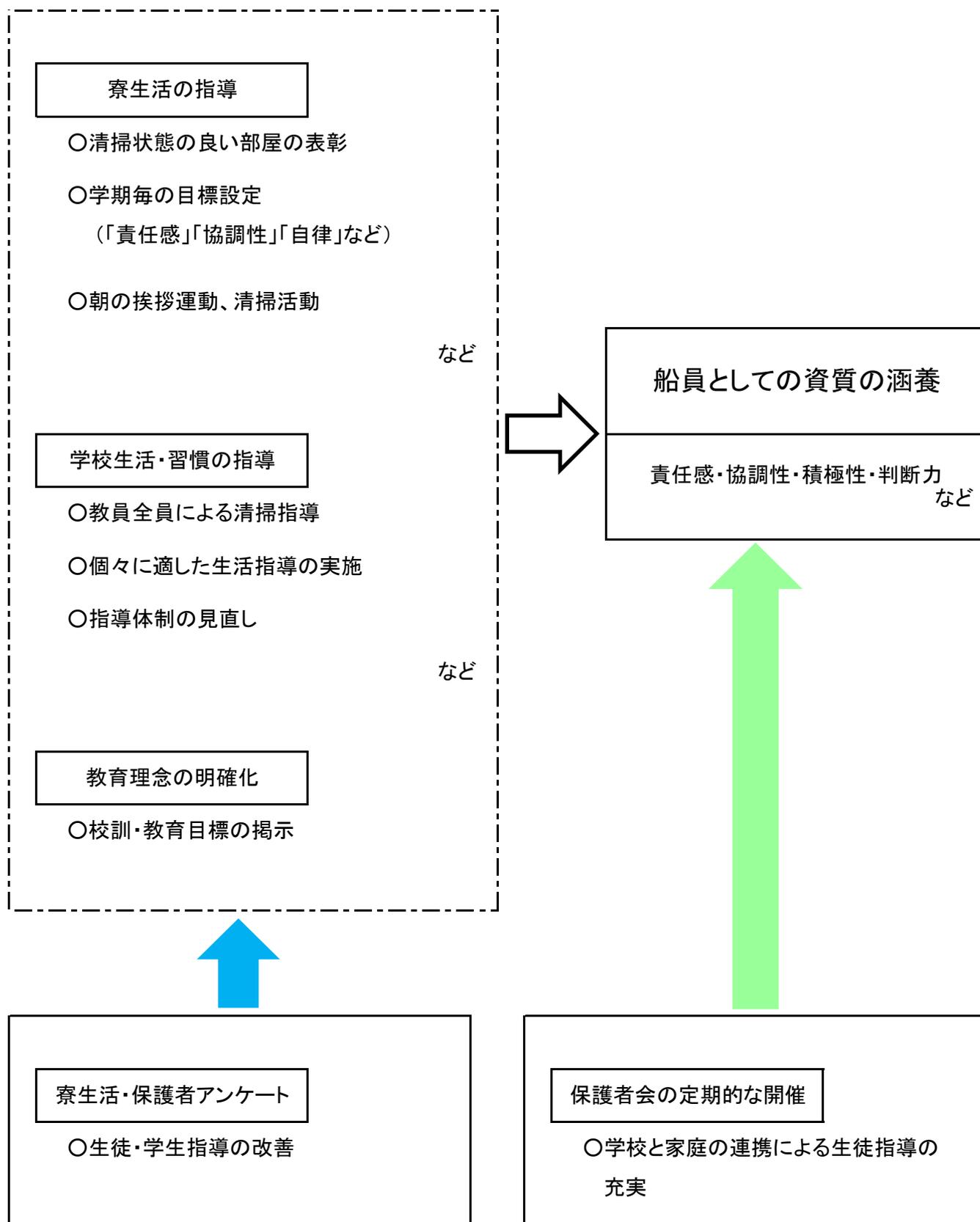
○修了者数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
一級	19名	16名	15名	8名	10名	7名	9名	84名
三級	—	—	—	5名	10名	9名	8名	32名

○水先人国家試験合格率



資質教育に関する取組



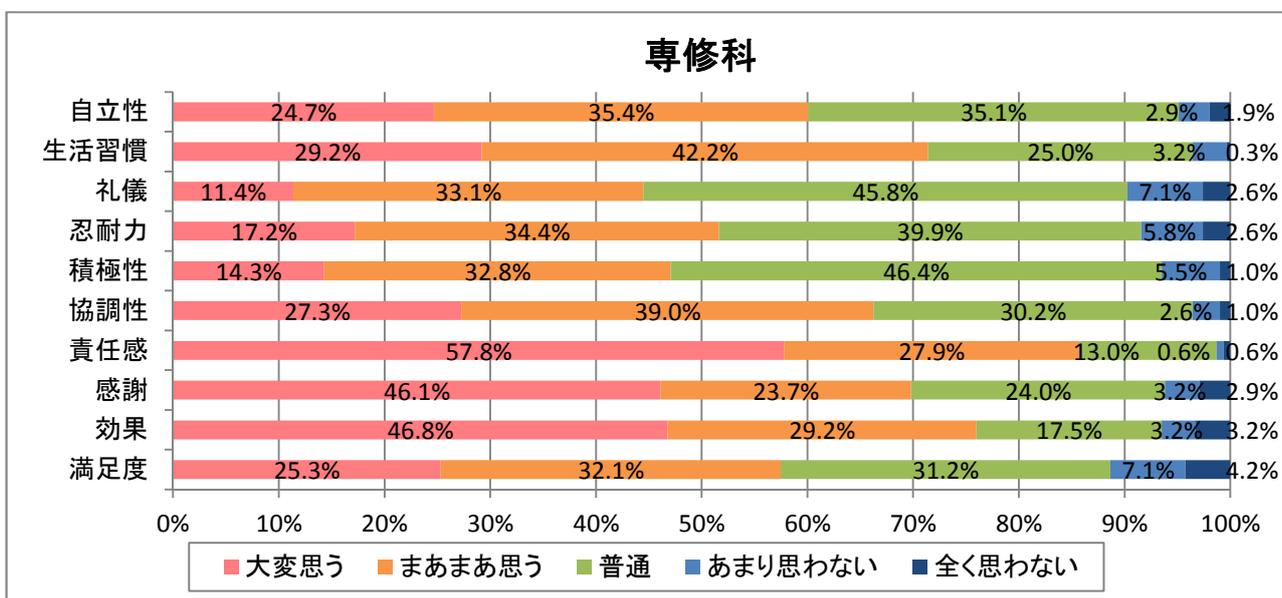
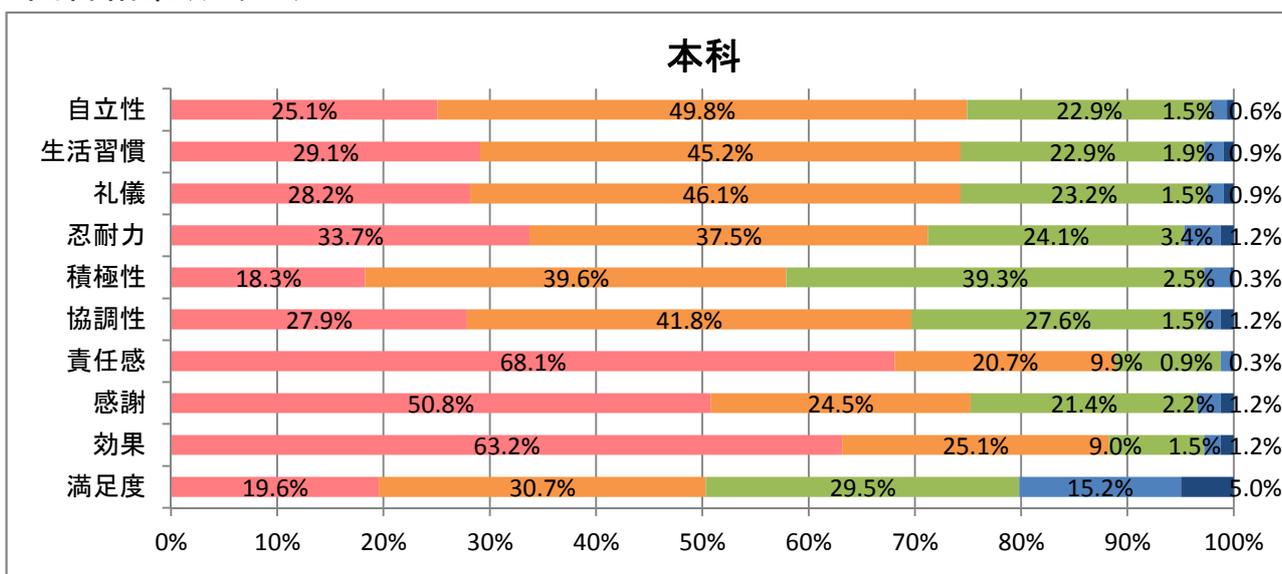
寮生活アンケートの調査の結果

1. 回答率： 99.8% (本科・専修科:631人/632人)

2. 設問

- 自立性：寮で生活するようになって、何でも自分でできるようになりましたか。
- 生活習慣：寮で生活するようになって、規則正しい生活をするようになりましたか。
- 礼儀：寮で生活するようになって、礼儀正しくなりましたか。
- 忍耐力：寮で生活するようになって、がまん強くなったと思いますか。
- 積極性：寮では、当番や係の仕事を進んでやっていますか。
- 協調性：寮では、他の生徒(学生)と協力し、仲良くするようにしていますか。
- 責任感：寮では、自分の仕事をきちんとしないと、周囲に迷惑がかかると思いますか。
- 感謝：寮で生活するようになって、家族のありがたさが分かるようになりましたか。
- 効果：寮での生活の経験は、自分の将来に役に立つと思いますか。
- 満足度：総合的に見て、寮での生活に満足していますか。

3. 回答結果(グラフ)



4. 回答結果について

本科、専修科ともに、「責任感:自分の仕事をきちんとしないと、周囲に迷惑がかかる」
「効果:寮生活の経験が将来役に立つ」など
寮生活に意義は認めているが
「積極性:当番や係の仕事を進んでやっているか」では
低い結果となっている。
また、寮生活の満足度では
「大変思う」、「まあまあ思う」
との割合が6割以下となるなど、寮生活の満足度は低いという結果であった。

5. 寮生活に対する主な回答

①良い点

・ 身の周りのことを自分でするので、生活力がつく。
・ 楽しい学校生活を送ることができる。
・ 協調性を養うことができた。
・ 船内生活における秩序(挨拶、責任感等)を学べるし、コミュニケーション能力が養える。

②悪い点

・ 他人への迷惑を考えない、仕事を人任せにする等、自分勝手な人がいる。
・ プライベート(自由時間)が少ない。

③改善して欲しいこと

日課関係	点呼、巡検の仕方を改善してほしい。
給食関係	食事(食堂業者・食事メニューなど)を改善してほしい。
設備関係	設備(電化製品、自動販売機等)を拡充させてほしい。

④その他

・ 掃除をさぼったりする等、規則を守らない生徒が多い。
・ もっと規則や指導を厳しくしてほしい。

6. アンケートに基づく改善

・ 「周りに迷惑をかけない」など一般常識に関する目標を設定し、集団生活の基本を養う指導を行う。
・ 寮規則や日課等を見直し、寮生活の意義、必要性を説明し、学生が納得した上で寮生活を送ることができるよう指導する。
・ 給食会議等で意見交換を行い、生徒の希望を取り入れたメニューの提供(生徒から好評)
・ 冷蔵庫や洗濯機、運動用具等の更新を順次行っている。

保護者アンケートの調査の結果

1. 回答率： 64.5% (214人/332人)

2. 設問

環境整備： 学校は清掃が行き届き、よく整備されていると感じますか。

生徒の雰囲気： 生徒は挨拶ができ、明るく健全な雰囲気が感じられますか。

教職員の対応： 教職員の対応は誠実で、信頼できると感じますか。

教科指導： 教員は、授業に熱心に取り組み、分かりやすい授業をしていると感じますか。

生徒指導： 学校は、生徒指導に熱心に取り組み、その成果が表れていると感じますか。

進路指導： 就職や進学に関する情報提供や指導が、適切に行われていると思いますか。

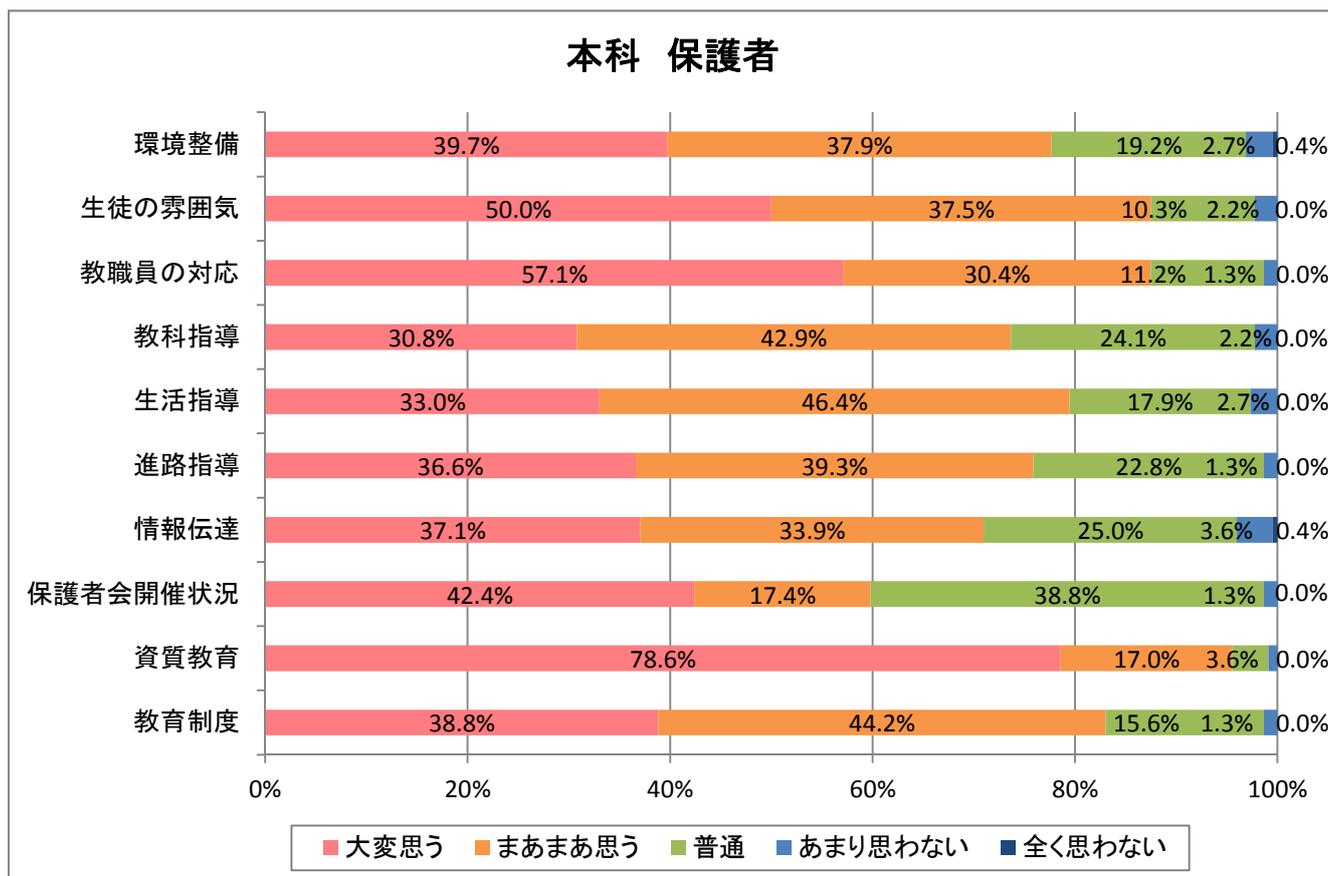
情報伝達： 学校からの情報は、学級通信やHP等により、適切に家庭へ伝えられていると思いますか。

保護者会開催状況： 保護者会や参観日の開催回数や内容に満足していますか。

資質教育： 寮生活や実習実技など在学习中の経験が、社会に出ていく上で役に立つと思いますか。

教育制度： 学校は、海技士資格、高卒同等資格などの各種資格取得制度について、その重要性の説明や補講などによる指導に努めていると思いますか。

3. 回答結果(グラフ)



4. 回答結果について

「生徒の雰囲気」「教職員の対応」「資質教育」などの項目については、好評価とする回答が約9割を占める一方で、「教科指導」「情報伝達」「保護者会開催状況」についての評価は低い。
保護者と学校の連携を一層深めていく。

5. 学校に対する意見

①入学後の子どもの変化

- | |
|-------------------------|
| ・ 心身ともに成長してきた。 |
| ・ 身の回りのことが自分でできるようになった。 |
| ・ 人を思いやる心が育ち、礼儀が良くなった。 |

②子どもに期待していることや改善して欲しいこと

- | |
|--------------------------------|
| ・ 資格取得に向け、勉強を頑張ってもらいたい。 |
| ・ 生活態度や礼儀を改善して欲しい。 |
| ・ 自分に自信を持っているようなことにチャレンジして欲しい。 |

③学校に期待していることや改善して欲しいこと

- | |
|------------------------------------|
| ・ 甘やかすことなく厳しい教育をして欲しい。 |
| ・ 補講を行うなど進学や就職の指導をしっかりと行って欲しい。 |
| ・ ホームページを更新し、学校生活の様子や写真を多く紹介して欲しい。 |

④その他

- | |
|-----------------------------------|
| ・ 色々ご指導をいただき、大変感謝しています。 |
| ・ 後輩達に胸を張ってこの海上技術学校の入学を勧めたいと思います。 |

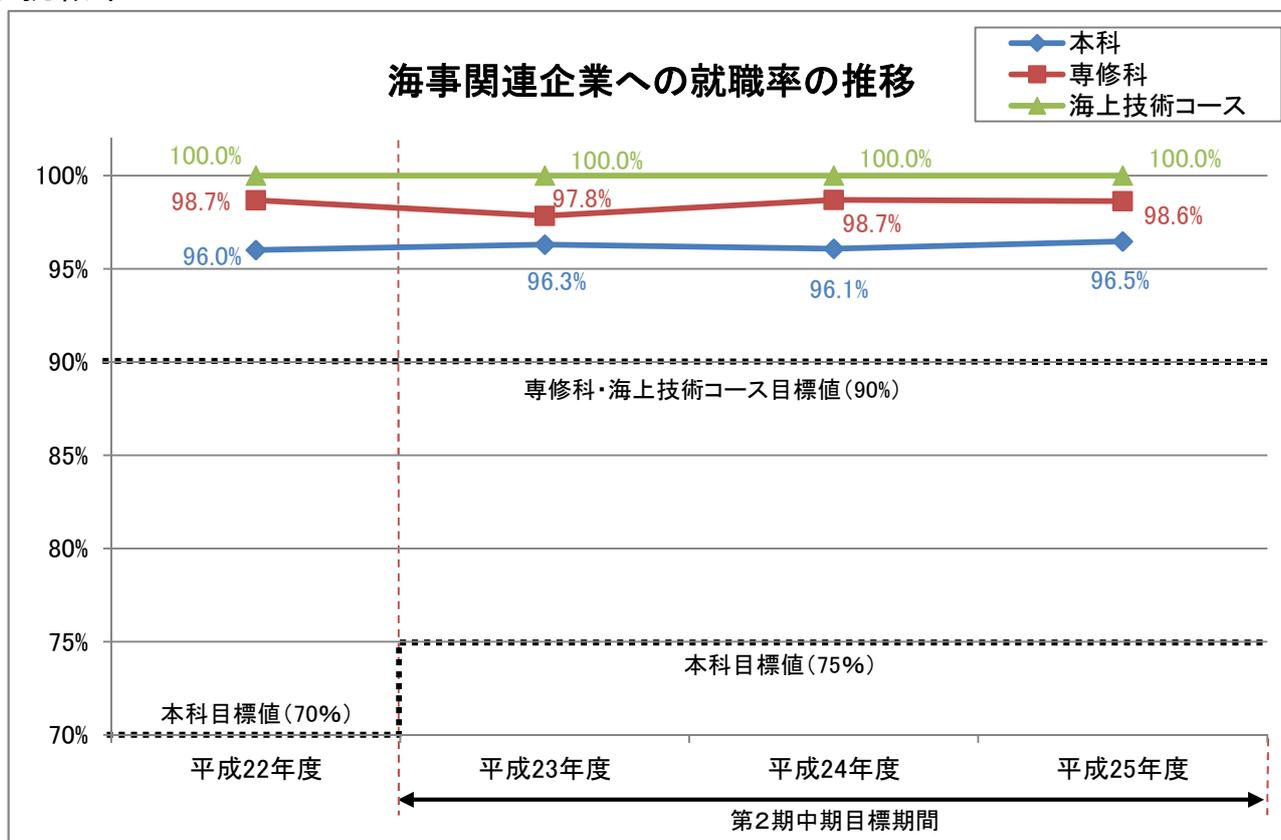
6. アンケートに基づく改善

- | |
|--|
| ・ トイレや物干し場の改修など環境整備を行い、生徒が安心して生活できる環境を整える。 |
| ・ 個人面談やアンケート、投書箱等により、生徒の心の声を聞くことに努める。 |
| ・ 保護者会ごとにテーマを決めて内容の多様化・連携の強化を図る。(保護者から好評) |

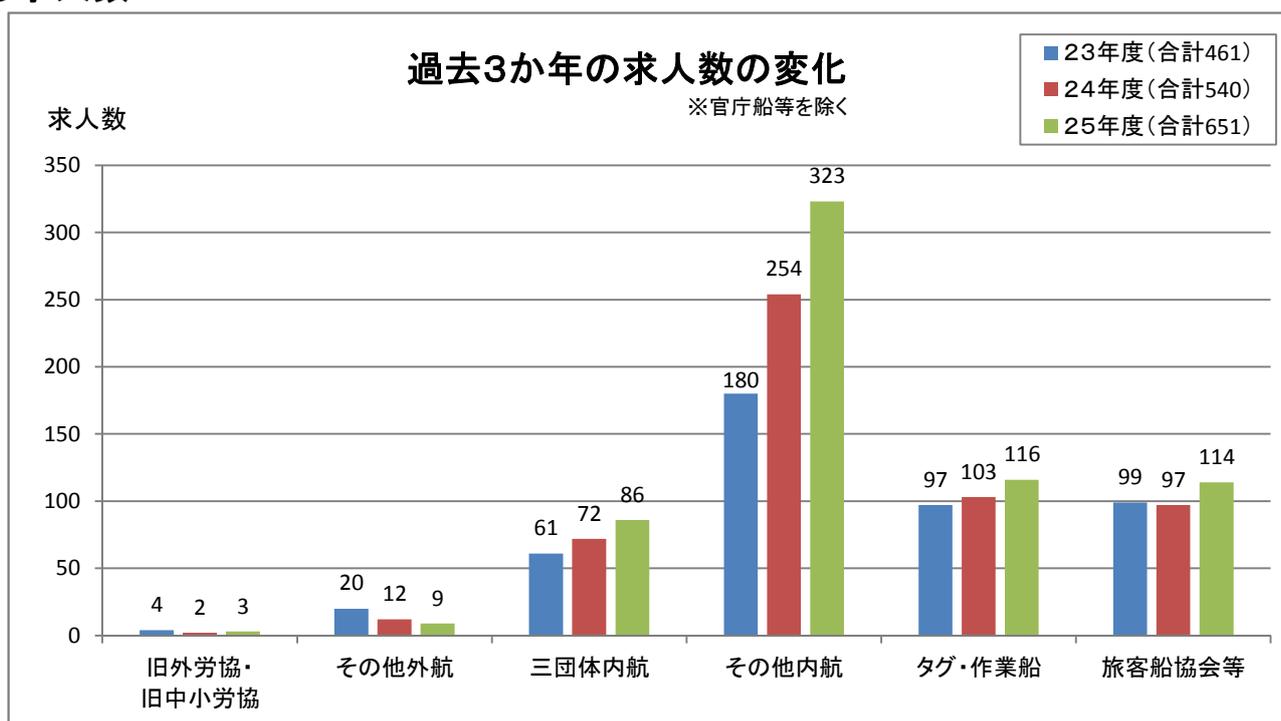
海事関連企業への就職率

(平成22年度～平成25年度)

○就職率



○求人数



就職に関する取組

○就職説明会等への学生の参加・・・1,548名

開催名	主催	参加人数
海技者セミナー	地方運輸局	822
東北運輸局講演会	東北運輸局	42
全国内航タンカー海運組合講演会	全国内航タンカー海運組合	301
内航海運の現状等に関する講演会	海技教育財団	204
内航海運について	関東地方船員対策協議会	64
船員就職セミナー	中部地方船員対策連絡協議会	115

○海事関係団体・海運会社等との意見交換会・懇談会・・・122回

主な相手方
日本船主協会、各地方船員対策連絡協議会、全国内航タンカー海運組合、長距離フェリー協会 商船三井フェリー(株)、(株)六青和 SHIPPING、(株)デュカム、イイノガストランスポート(株) 他海事関係団体、海運会社多数

○職員による会社訪問・・・73回、392社(新規開拓42社を含む)

○求人依頼文書発送・・・567社(新規開拓62社を含む)

○業界紙への広告掲載・・・2回(内航海運新聞)

○内航船乗船体験・・・体験者67名、受入社数39社、受入隻数47隻

船種	体験者数	受入社数	受入隻数
RORO船	22	10	13
タンカー	19	13	14
自動車運搬船	3	2	2
貨物船	12	9	10
石灰石運搬船	4	3	3
セメント船	6	4	4
タグボート	1	1	1

※同一船舶に複数名乗船しているため、表の受入社数の合計は、実績値と合致しない。

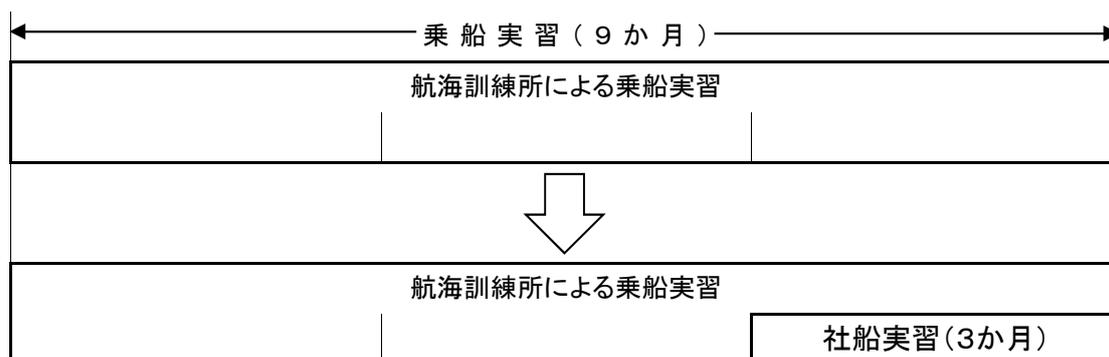
海運業界からのニーズ又は意見

船種	ニーズ又は意見
タンカー	・ 生徒の質（素朴さ、素直さ、前向き）が大切
	・ 積極性のある人を求める
	・ 上級海技士筆記試験合格者がよい
	・ 第一級海上特殊無線技士が必要
	・ 航機両方の免許を取得すること
	・ 英文の書類に対応できる人材が欲しい
	・ 陸上で船舶管理が出来る人を探している
	・ 本人が素直で乗組員のいうことを受け入れられるということがとても大切な要素
L P G船	・ 高い向上心がある生徒
	・ 四級海技士免許必要
	・ 第三級海上無線通信士があるとよい
ケミカル船	・ 素直で明るい生徒
	・ 三級海技士筆記試験合格者必要
セメント船	・ 生徒の質重視（やる気、素直さ、明るさ）
	・ コミュニケーション能力、常識重視
	・ 機関部の卒業生を求める
	・ 第三級海上無線通信士の取得が望ましい
R O R O船	・ 目標を持って乗船するような人を求める
	・ 頭の回転が速く、常識のある生徒
	・ 三級海技士筆記試験合格者を求める
貨物船	・ 協調性がある、辛抱強い学生を求める
	・ 四級海技士免許必要
タグボート	・ 長く勤めてくれる人を求める
	・ 明るく元気で、向上心のある生徒
	・ 料理が出来る方がよい
	・ 船内の環境に適應できる人
	・ 第一級海上特殊無線技士及び三級海技士免許要望
作業船	・ コミュニケーション能力がある生徒
	・ 四級海技士免許必要
	・ 英語が好きな人を求める
フェリー	・ 三級海技士免許が必要
調査船	・ 人柄重視（協調性、打たれ強さ）
	・ 三級海技士筆記試験合格者
	・ 部員希望者

社船実習の実施状況

海上技術学校の生徒・海上技術短期大学校の学生に対する9か月の乗船実習のうち、後期3か月について、内航貨物船等による社船実習を導入

〈船員の確保・育成検討会報告：平成24年3月〉



○平成25年度実績

科別	実施期間	船社数	実習生数
専修科	平成25年 10月～12月	5社	6名
本科	平成26年 7月～9月 (予定)	5社	8名

○実施後アンケートによる主な回答 ※複数回答可

実習生	・ 航海訓練所の練習船と比較して、実際の現場の作業を体験することができ良かった(6名)
	・ 少人数での実習であり、乗組員から丁寧な指導が受けられ良かった(4名)
乗組員	・ 学生は予想以上に一生懸命に取り組んでいたと感じた(10名)
	・ この実習は、乗組員との意思疎通や実践的な実習内容等から大変有意義であり、実社会へ出たときに役立つと思う(10名)
船社	・ 社船実習には基礎知識が不可欠であり、学生が習得しているか学校にきちんと確認してから送り込んで欲しい(2社)
	・ 危険に対する基礎的注意が不十分であり、航海訓練所の練習船による実習の段階で徹底した上で学生を送り込んで欲しい(2社)

教員の生徒・学生指導に関する意識調査の結果

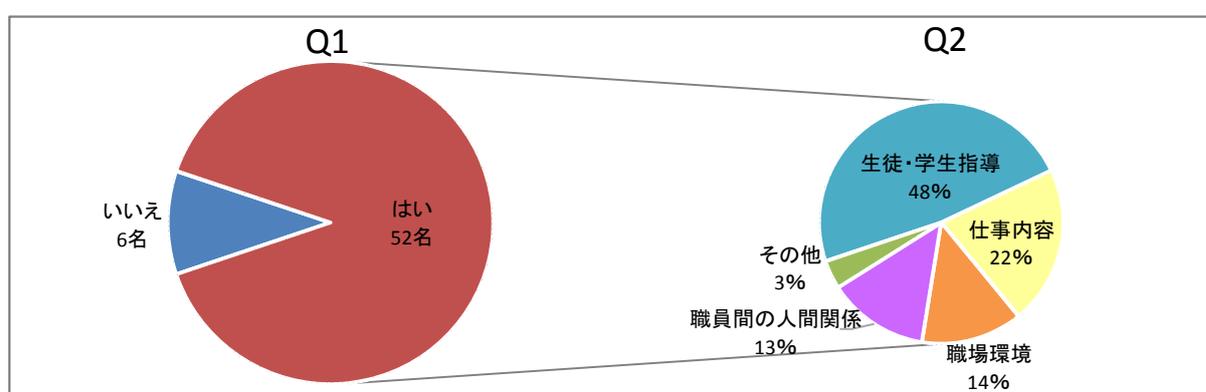
1. 実施時期:平成25年4月

2. 回答者数:海上技術学校教員29名・短期大学校教員29名 計58名(回答率 92.1%)

3. アンケート結果

Q1. 生徒・学生の指導に悩んだことはありますか。

Q2. どのようなことで悩みましたか。(Q1で「はい」と答えた方対象/複数回答可)

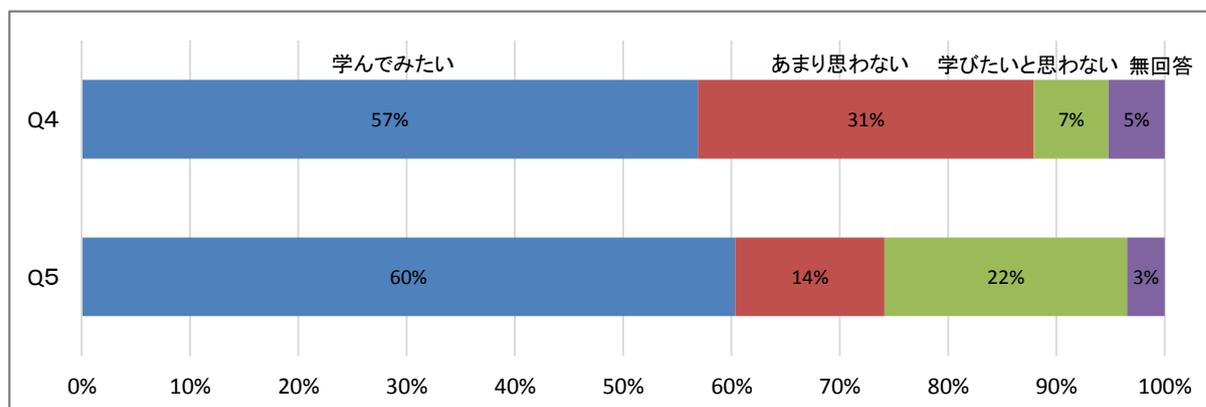


Q3. 指導力を高めるためには何が必要と考えますか。(主なものを抜粋)

- ・ 経験
- ・ 生徒・学生とのコミュニケーション、信頼の構築
- ・ 周囲へ相談し、実行すること
- ・ 時間的余裕

Q4. 体罰を使わない指導方法があれば、学んでみたいと思いますか。

Q5. 体罰を使わない指導方法についての研修等を受けてみたいですか。



教員の指導力向上のための研修

1. 本部主催による研修

(1) 実技研修

① 内航船乗船研修

目的	船舶運航に関する最新の知識・技能を習得させる
実績	1名(8日間) RORO船(7,323トン) 1名(6日間) タンカー船(7,767トン) 1名(6日間) 石灰石運搬船(10,742トン)

② ECDIS研修

目的	STCW条約の改正に基づき、海上技術学校等の航海科教員対して、ECDIS訓練に関する研修を実施 (教員技能の向上、生徒・学生に対する指導技術及び教育の充実を図る)
実績	参加教員 12名 研修期間 40時間(5日間)

(2) 全教員に対する、体罰に頼らない指導についての研修の実施

○ 5月～6月にかけて、全教員を対象に全8校で実施

- ・ 外部講師による「体罰によらない指導方法について」の講演を実施し、ビデオ撮影することで、各学校で実施した「生徒・学生指導の改善に関する研修」において活用し、指導力及び授業力の向上に努めた。

○ 生徒・学生指導の改善に関する研修の具体的な内容

- ・ 生徒・学生への懲戒に関する機構の規程
懲戒を加えることはできるが、体罰を加えることはできない
- ・ 懲戒と体罰の違い
- ・ 体罰が生徒に及ぼす影響
- ・ 教える側と学ぶ側の違いを自覚する
- ・ 怒らずに叱る
- ・ うまい叱り方10ヶ条

(3) その他の研修の実施

	主な研修
教員	ファーストステップ研修、新任課長研修、小型教員研修 他
事務員	ファーストステップ研修、公文書管理研修、給与実務研修会 他

2. 各学校における研修

(1) 学校管理運営上必要とされる研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ 防火管理者講習	10名
	・ 陸上特殊無線技士講習	
	・ 給食施設管理者・従事者研修 など	
校内研修	・ 体罰防止校内研修	42名
	・ セクシャルハラスメント防止校内研修	
	・ 小型教習事務校内研修 など	
計		52名

(2) 教育業務の維持に有用な資格取得のための研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ クレーン講習	19名
	・ 玉掛け技能講習	
	・ ECDISTレーナートレーニング など	
校内研修	・ 小型船乗船研修	4名
	・ 校内クレーン実技研修 など	
計		23名

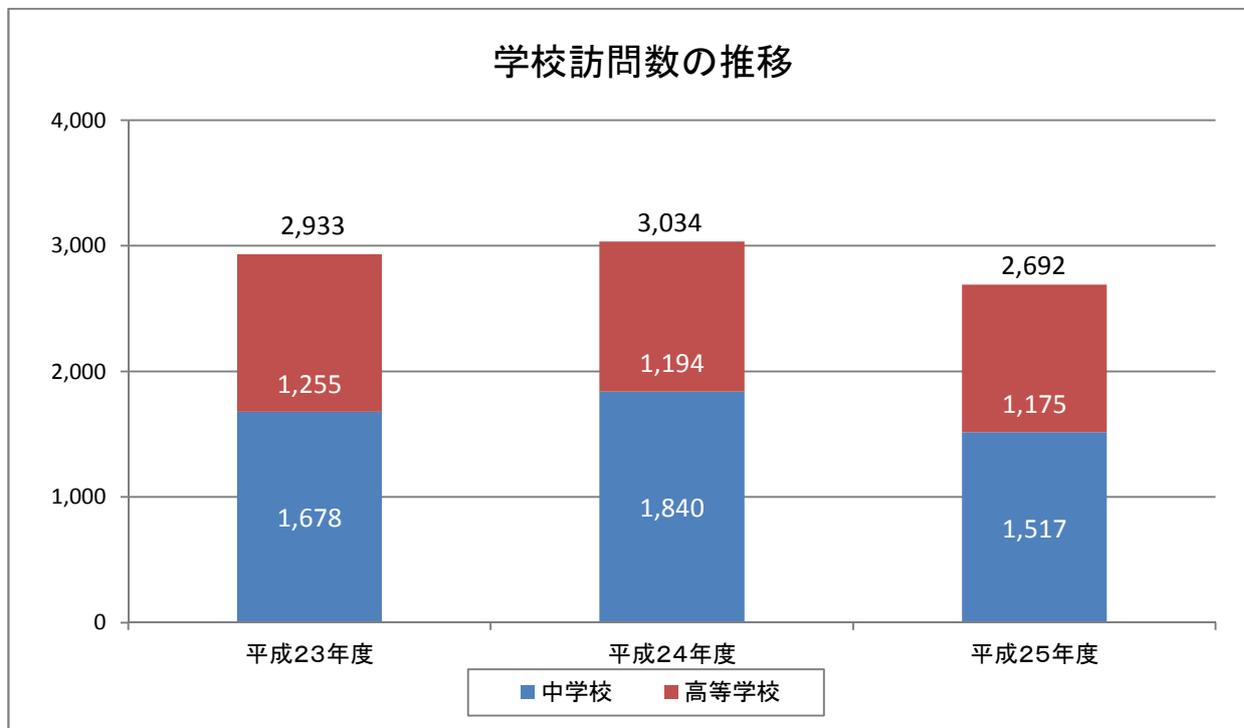
(3) 教員の教育の質の向上のための研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ 船長実務講座	25名
	・ 船舶機関室シミュレータ研修	
	・ アーク溶接特別教育	
	・ メンタルヘルス講習 など	
校内研修	・ 新採用者研修	131名
	・ 校内練習船乗船研修	
	・ 機関シミュレータ研修	
	・ ワイヤーサービング研修 など	
計		156名

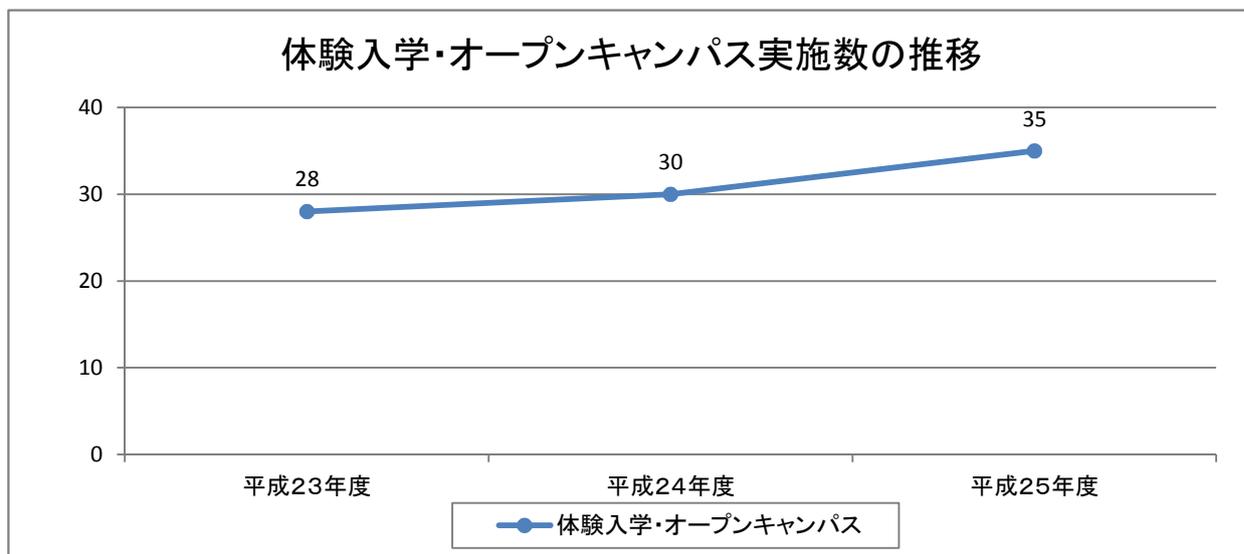
合 計		231名
-----	--	------

各学校の募集活動に関する取組

○学校訪問



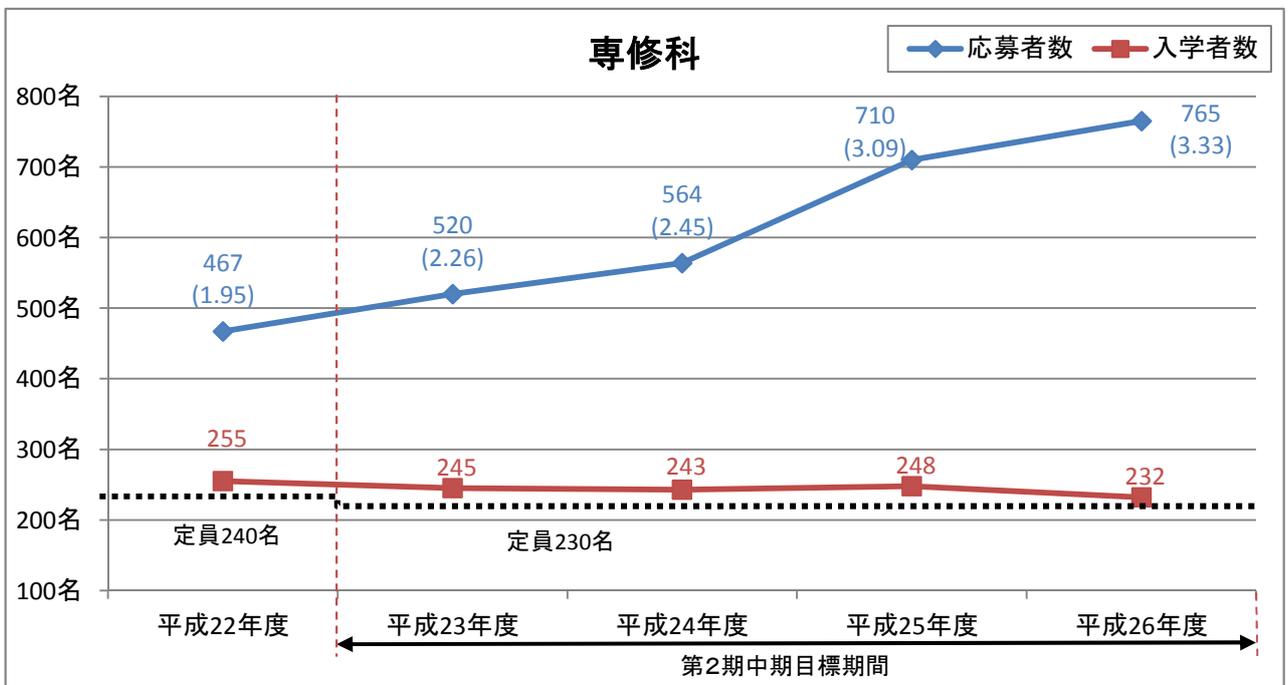
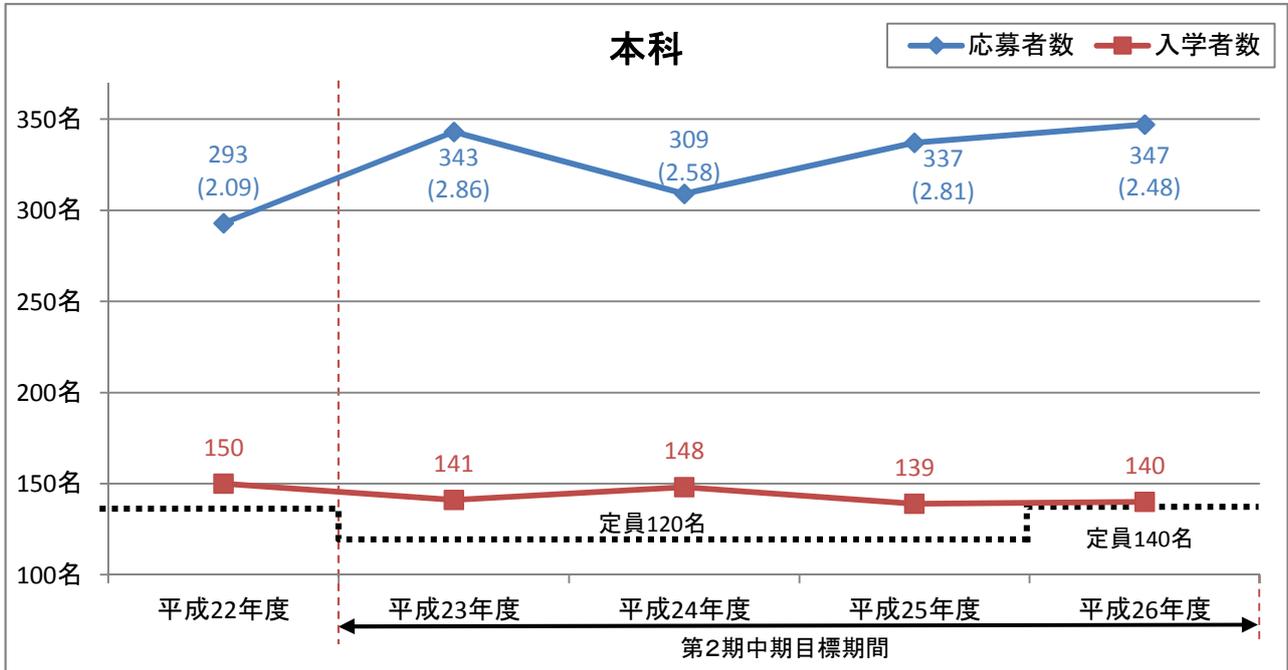
○体験入学・オープンキャンパス



○その他

- ・ 学校説明会への参加: 30回
- ・ 新聞・雑誌・広告等による広報: 289回
- ・ 学校案内等の送付: 延べ28,222箇所

入学応募者数・応募倍率の推移 (平成22年度～平成26年度)



注1) ()内は応募倍率である。

平成25年度研究項目一覧

○重点研究（平成22年度から）…2件（内新規：0件）

分類	研究テーマ名	研究期間※
教育	海技者育成における教育・訓練資機材のあり方に関する研究	H22.4～H26.3
教育	船員教育の高機能化に関する研究	H22.4～H26.3

○一般研究（平成23年度からの継続研究及び平成25年度新規研究）…16件（内新規：6件）

分類	研究テーマ名	研究期間※
航海	操船者の立場から見たAISの活用のフォローアップ検証	H23.4～H26.3
機関	機関室巡回ロボットに関する研究	H23.4～H26.3
機関	機関室シミュレータを用いた運航に関する省エネルギー評価について	H24.4～H27.3
安全	港内タグボートの安全性に関する研究	H23.4～H27.3
安全	船員の静電防止具着用に関する実験的研究-II	H24.4～H26.3
安全	機関システムの運転管理に関する調査研究	H24.4～H27.3
安全	航海情報の統合に関する研究	H25.4～H27.3
安全	GPS信号の伝搬特性と測位精度に関する研究	H25.4～H28.3
環境	燃料電池発電システムの船舶電源への導入に関する研究	H23.4～H26.3
環境	分析機器を利用した海洋環境教育に関する研究	H24.4～H26.3
教育	Engine-room Team Management訓練に関する研究	H24.4～H27.3
法規	船員のための国際法入門	H25.4～H26.3
法規	旗国による船員保護の問題点	H25.4～H26.3
普及	海事思想の普及に向けての一試行	H24.4～H27.3
普及	水都阪神港計画	H25.4～H27.3
普及	船と海の認知度	H25.4～H27.3

※研究期間は、重点研究は4年。一般研究は原則3年以内とする。

○共同・受託研究…1件（内新規：1件）

相手先	研究テーマ名
一般社団法人日本船長協会	操船シミュレータ訓練棟における調査研究

〈研究の分類〉

航海：船舶の運航技術に関する研究（航海系）

機関：船舶の運航技術に関する研究（機関係）

安全：船舶の安全性・信頼性に関する研究

環境：海洋汚染等船舶の運航に関して発生する環境問題に関する研究

教育：船員の教育訓練に関する研究

法規：船員政策、海事法規、海事海運経済に関する研究

普及：海事思想の普及に関する研究

研究成果発表一覧

No.	分類	発表タイトル	発表形式	実施日
1	航海	基本運用術 2訂版	著者	H25.4
2	普及	ハーマン・メルヴィル『ビリー・バッド』の「後日談」を読む—語り、歴史、 《花形水夫》の文化的記憶		H25.5
3	安全	本船の離着岸操船支援時における曳船の挙動調査	学会論文発表	H25.6
4	法規	国際法による船員の保護—外交的保護と旗国主義—		H25.11
5	安全	Proposal for Global Standard Maneuvering Orders for Tugboats		H25.12
6	安全	The Propagation Characteristic of DGPS Correction Data Signal at Inland Sea— Propagation Characteristic on LF/MF Band Radio Wave —		H25.12
7	機関	Marine Boiler Water/ Cooling Water Management and Distilling Plants		H25.9
8	普及	海事思想の普及へ向けての一試行	国際学会 講演発表	H25.6
9	安全	Proposal for Global Standard Maneuvering Orders for Tugboats		H25.6
10	安全	The Propagation Characteristic of DGPS Correction Data Signal at Inland Sea— Propagation Characteristic on LF/MF Band Radio Wave —		H25.6
11	安全	Evaluation method of energy saving operation in marine engine plant system by using engine room simulator		H25.10
12	安全	Occurrence Tendency of Near-Miss of Harbor Tugboats in Japan		H25.10
13	安全	離着岸操船におけるタグボート運用要素の評価	国内学会 講演発表	H25.5
14	航海	操船者から見たAIS利用の現状— II		H25.5
15	安全	タグボート乗組員の常態化したヒヤリハットについて		H25.3
16	法規	国際海運における船員の保護—国連海洋法条約による対応とその 問題点—		H25.11
17	環境	海上労働に関する条約成立の意義—国際法による法的対応の観点から—		H25.9
18	環境	太陽電池、燃料電池、及びガスタービン発電機の停泊中の船舶への利用に 関する基礎研究		H25.9
19	環境	液化天然ガスを燃料とする燃料電池の船舶電源への導入に関する基礎 検討		H25.9
20	機関	2012年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩	研究報告	H25.7
21	法規	船員と社会的責任		H25.10
22	教育	BRM訓練テキストに関する一考察		H26.3
23	教育	BRM訓練におけるシミュレータ訓練シナリオに関する一考察		H26.3
24	教育	船員のための国際法入門 序章—外航船員に必要な国際秩序の理解—		H26.3
25	教育	海技大学校における海上技術コース(航海・機関/航海専修・機関専修)の 海事英語教育における諸問題		H26.3

発表形式	発表実績
査読付学会論文発表・著者	7
国際学会講演発表	5
国内学会講演発表	7
海技大学校研究報告等	6
合計	25

